

# 研究所だより

第418号  
2020年 7月30日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3015

“名も知らぬ 遠き島より 流れ寄る 椰子の実一つ  
故郷の岸を離れて 汝(なれ)はそも 波に幾月(いくつき)  
旧(もと)の木は 生(お)いや茂れる 枝はなお 影をやなせる”  
『椰子の実』 作詞：島崎藤村 日本の歌曲(1936)



## ～いよいよ夏本番！～

7月22日(水)は「大暑」でした。(22日から立秋までの期間を大暑と呼ぶ場合もあります。)大暑という文字を見ただけで汗が噴き出してきそうな名前ですね。最も暑い頃という意味ですが、暑さの本番はこれからで8月上旬～中旬にかけて暑さのピークを迎えます。

ところで、大暑の日は天ぷらの日として、土用の丑の日、8月29日の焼き肉の日と並んで「夏バテ防止三大食べ物記念日」とされています。どうして天ぷらなのかと言うと「暑さに負けないように栄養豊富な天ぷらを食べ、夏を乗り切ろう」という意味があるそうです。また、大暑をはじめとした夏の暑さに打ち勝つためには「う」のつく食べ物を摂るとよいとも言われています。

- ①ウナギ；夏バテ防止に効果があるビタミンB1、Aを豊富に含む
- ②梅干し；疲労回復に役立つクエン酸が効果を発揮
- ③うどん；夏バテ予防・食欲増進

健康に留意して過ごしましょう。



## 「指導と評価」(図書文化)8月号より

### ☆教育の窓☆

岸川 央 先生(福岡教育大学・九州栄養福祉大学 非常勤講師)

### 生徒指導は「人間関係づくり」から

教育現場では、特に経験の少ない若手教師が、問題を起こした児童生徒に対して、「生徒指導を行いました、本人が認めません」とか、「何度言っても反省しません」「言うことをまったく聞きません」などと、自信喪失している場面を目にすることがある。

しかし、生徒指導で子どもの考え方や行動を変容させるためには、**教師と子どもとの日ごろからの信頼関係づくりの積み重ね**が不可欠である。すなわち、『人間関係ができていない状況で行う指導は、生徒指導と言わない』ということである。

例えば、A、B、C三名の教師が、ある生徒の指導を行った際に、まず教師AとBが対応したが、生徒は興奮してまったく受け入れる様子が見られないのに対し、教師Cが対応すると落ち着いて話を聞き、心より反省し、今後頑張る旨を約束するという場面に遭遇した経験はあるだろう。なぜ教師Cだけが、うまくいったのだろうか。

この教師Cは、常日ごろから子どもたちとのより良い人間関係づくりを意識し、子どもたちを理解しようと努力し、子どもたちから逃げずに真剣に根気強く関わってきたからこそ、この結果につながったわけである。学校にとって教師Cは、なくてはならない大きな存在である。私自身を振り返ると、生徒指導主事や生活補導主事を十年以上務め、数多くの生徒指導を経験してきた。しかし、若いころには失敗の経験もした。その度に先輩たちから多くを学び、その積み重ねにより、指導の場面で生かすことができたと考える。

若手教師は経験を積んでいないからこそ、遠慮せずによくを質問したり、先輩の生徒指導場面から学んだりする機会を自ら積極的につくる必要がある。自分の将来像の実現へ向け、自ら切り拓く心構えと

意欲が必要になる。

また、腹をわって相談できる比較的年齢の近い先輩や同僚の存在が必要である。管理職や先輩教師も、自らの責任として、気軽に相談にのったり助言や支援ができたりするような人間関係をつくらなければならない。

### ●朝の挨拶

われわれ教師は毎朝、登校する生徒に校門で「おはよう(ございます)」と大きな声で挨拶をする。生徒が挨拶をしてもしなくても、継続することで、子どもの表情や仕草から、健康状態や心の変化に少なからず気づくことができるようになるものである。

児童や生徒はまだ未熟である。だから生徒からすれば嫌いな教師がいてもおかしくないし、嫌いな教師に対して挨拶しない生徒がいても不思議ではない。しかし、われわれ教師は「教育のプロ」である。生徒が自ら壁をつくることがあっても、**教師が生徒に対して壁をつくることはあってはならない**。生徒がつくった壁に対して教師は、毎日挨拶を繰り返したり、日ごろの学校生活の中で声かけをしたりするなどして、その壁を少しずつでもよから壊していくよう努力しなければならない。挨拶が返ってこない生徒には、学校生活の中で積極的に関わり、少しずつでも話ができる関係の確立へ向け努力しなければならない。

また、教師や保護者等の大人は、ついつい子どもの悪いところに目が向き、やかましく言ってしまう傾向にある。子どもとの人間関係づくりの重要な点は、子どもの悪いところではなく、**良いところを探そうとする意識を常に持つことである**。問題を起こす子どもも必ず良いところをもっている。その良いところを認め、ほめてやることで、子どもは自信をもち自己の成長に繋げることができる。その結果、関心を示さなかった生徒がこちらを向いたり目が合ったりすることで、ごくわずかな変化ではあっても、その姿に教師としての喜びを感じるのである。

いじめや人間関係等を苦に不登校になったり、自ら死を選ぶ子どもが後を絶ちません。また、新型コロナウイルス感染症の影響下では、子どもたちの心の回復(ケア)を支援することは非常に重要です。今まさに想定外の危機管理が求められています。

まずは“さしすせそ”を基本に対応しましょう。

### ◇学校の危機管理“さしすせそ”！◇

- さ：最悪のことを考える(最悪の事態を想定して)
- し：慎重に
- す：素早く
- せ：誠実な対応
- そ：組織対応が大事(ONE TEAM チーム学校)



### 夏季休業中の予定(教育センターは、夏季休業・閉庁期間中も業務を行っています)

#### ①第3回社会科副読本改訂版編集委員会

日時：8月20日(木)15:00～  
会場：教育センター

#### ②第2回転入教職員地域学習会

日時：8月21日(金)15:00～  
会場：松崎福祉センター

#### ③第2回あすなろネットワーク

日時：8月28日(金)15:30～  
会場：教育センター

内容：「個別的教育支援計画・個別の指導計画・引き継ぎシートについて」  
講師：宮上 美智子指導主事(西部教育事務所)

